

高知県感染症発生動向調査(週報)

2010年第17週〔4月26日～5月2日〕

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
<http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/>
E-mail: kansen@ken4.pref.kochi.jp

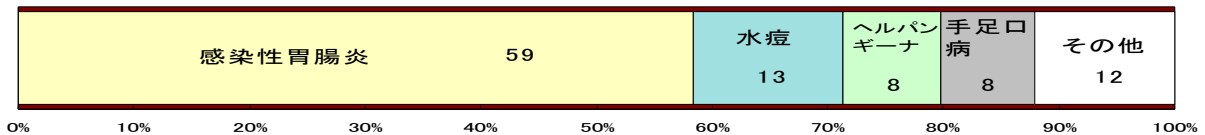
県内情報

○ 患者情報総評

注意報発令疾患：水痘、マイコプラズマ肺炎

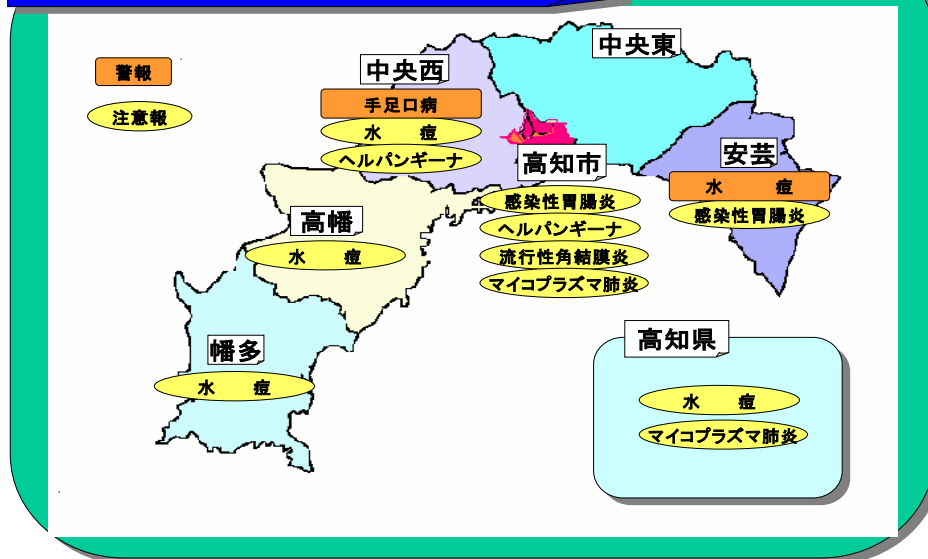
- 週の前半に雨の降る日があったが、その後は回復し気温も平年並みとなった。
- 感染性胃腸炎（安芸：注意報，高知市：注意報）は安芸から高知市にかけての地域で増加し，総数はさらに増加した。
- 水痘（安芸：注意報→警報，中央西：注意報，高幡：注意報，幡多：注意報）は中央東を除く地域で増加し，総数は前週の1.8倍に急増し注意報値を超した。
- ヘルパンギーナ（高知市：注意報→注意報，中央西：注意報）は例年より早い立ち上がりで，増加を続けていたが，今週は横ばいの報告となった。
- 手足口病（中央西：注意報→警報）は中央医療圏で増加し，総数は前週の2.7倍増となった。特に中央西では警報値を大きく超す流行となっており，今後の推移に注意が必要である。
- インフルエンザは1例（50歳代男）の報告があり，簡易キットでA型陽性となっている。
- マイコプラズマ肺炎（高知市：注意報）は今年に入り0～2例の報告で推移していたが，今週は4例の報告となり注意報値を超した。搬入された検体からも *Mycoplasma pneumoniae* が検出されており，今後の推移に注目される。

上位疾患構成図



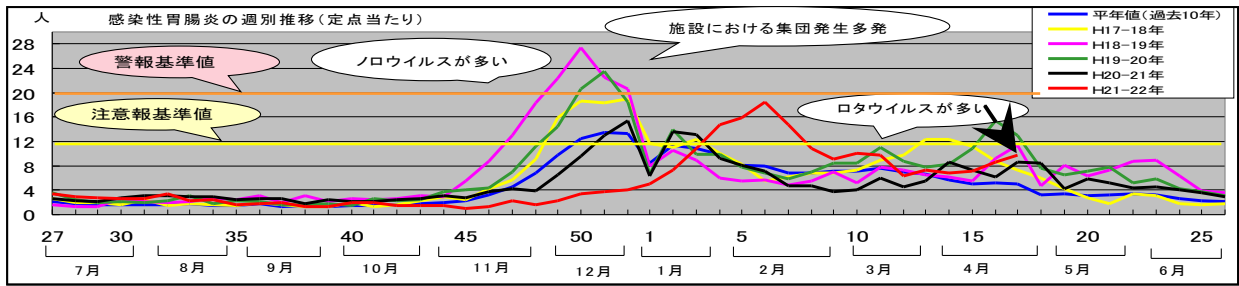
地域別感染症注意報・警報発生状況

第17報（2010年4月26日～2010年5月2日）



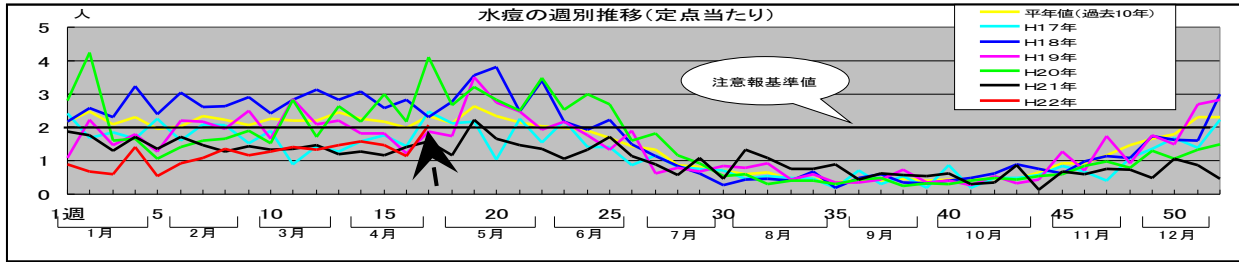
感染性胃腸炎：今週9.80（注意報値：12.00 警報値：20.00）

総数はさらに増加し，安芸と高知市で注意報値を超している。搬入された検体からは Rotavirus 7件，Norovirus 2件，Parainfluenza virus 1件が検出されており，流行の主流はロタウイルスであると推測される。



水痘：今週2.07（注意報値：2.00 警報値：4.00）

今年は例年と比較して低いレベルで推移していたが、今週に入り急増し注意報値を超した。地域毎にみると、安芸では警報値を超し、中央西、高幡、幡多では注意報値を超した。



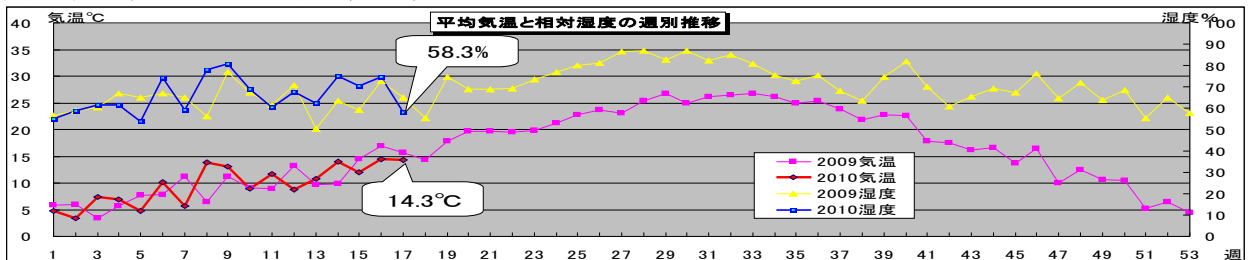
○ 検査情報

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス, 細菌の検出状況
16	インフルエンザ	2歳女	高知市	Human metapneumovirus
16	感染性胃腸炎・上気道炎	5歳女	中央東	Parainfluenza virus 2
17	感染性胃腸炎	1歳男	中央東	Rotavirus A群
17	感染性胃腸炎	3ヵ月男	中央東	Rotavirus A群
17	感染性胃腸炎	1歳女	高知市	Rotavirus A群
17	感染性胃腸炎	11歳男	高幡	Norovirus GII
17	感染性胃腸炎	1歳男	高幡	Rotavirus A群
17	感染性胃腸炎	1歳男	高幡	Rotavirus A群
17	感染性胃腸炎	8歳男	高幡	Rotavirus A群
17	感染性胃腸炎	1歳女	高幡	Rotavirus A群
17	感染性胃腸炎	13歳男	高幡	Norovirus GI
16	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9歳男	高知市	Streptococcus pyogenes T-4
17	気管支炎	12歳男	高知市	Mycoplasma pneumoniae
17	感染性胃腸炎	11歳男	中央東	Campylobacter jejuni

○ 全数報告の感染症情報

2類感染症：結核 3例（37歳男）《高知市》（62歳女，77歳男）《中央東》（今年50例）

○ 高知県の平均気温と湿度（週別）



○ 定点からの地域ホット情報

幡多：

《渭南病院小児科》：マイコプラズマ気管支炎 1例（6歳）

高幡：

《もりはた小児科》：感染性胃腸炎の1～2歳児の5例は全てロタウイルス陽性
アデノウイルス感染症 2例（1歳女，2歳男）

中央西：

《石黒小児科》：水痘の1例（7歳男）はワクチン接種済み

《くぼたこどもクリニック》：感染性胃腸炎の2例（1歳男，4歳女）は津野町，1例（3歳男）は須崎市，
1例（2歳女）は四万十町 口唇ヘルペス 1例（3歳男：仁淀川町）

高知市：

《三愛病院小児科》：带状疱疹 1例（7歳女）
《けら小児科・アレルギー科》：アデノウイルス扁桃炎 1例（1歳女）
《町田病院》：流行性角結膜炎の4例中1例はアデノウイルス陽性

中央東：

《あけぼの小児クリニック》：アデノウイルス咽頭炎 2例（1, 6歳） 百日咳の1例は32歳女性

安芸：

《県立安芸病院小児科》：インフルエンザの1例（50歳代男）はA型陽性

全国情報第15週（4/12～4/18）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核284例

3類感染症：細菌性赤痢1例、腸管出血性大腸菌感染症18例（有症者7例、うちHUS なし）、腸チフス1例、パラチフス2例

4類感染症：E型肝炎2例、A型肝炎5例〔*第10～15週の累積報告数は91例（劇症肝炎2例、うち死亡1例）となり、都道府県別では、福岡県18例、広島県15例、東京都11例の順に多い。91例のうち、感染源として、カキ43例、貝類3例などが推定されている。広域アウトブレイクの可能性もあり、引き続き注意を要する。〕、つつが虫病1例、デング熱2例、レジオネラ症5例

5類感染症：アメーバ赤痢7例、ウイルス性肝炎3例（B型：2例、C型1例）急性脳炎1例、クリプトスポリジウム症1例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例、後天性免疫不全症候群15例（AIDS 6例、無症候8例、その他1例）、ジアルジア症1例、梅毒10例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、風しん1例、麻しん15例

報告遅れ：パラチフス1例、デング熱1例、日本紅斑熱5例、マラリア2例、急性脳炎3例、クリプトスポリジウム症1例

◆手足口病

手足口病（hand, foot, and mouth disease：HFMD）は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス性感染症であり、乳幼児を中心に主に夏季に流行する疾患である。病原ウイルスは主にコクサッキーウイルスA16（CA16）、エンテロウイルス71（EV71）であり、その他コクサッキーウイルスA6、A9、A10などのエンテロウイルスによって発症する。臨床的特徴であるが、感染から3～5日の潜伏期間の後に、口腔粘膜、手掌、足底や足背などの四肢末端に2～3mmの水疱性発疹が出現する。発熱は約3分の1に認められるが軽度であり、高熱が続くことは通常はない。本症は基本的には数日間のうちに治癒する予後良好の疾患である。しかしながら、まれではあるが髄膜炎、小脳失調症、脳炎などの中枢神経系の合併症などのほか、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの多彩な臨床症状を呈することがある。特にEV71に感染した場合は、中枢神経系の合併症を引き起こす割合が高いことが明らかとなってきたため、同ウイルスが流行している期間中は、手足口病発症児の経過を注意深く観察し、合併症に対する警戒を行う必要がある。なお、急性脳炎を合併した場合には、5類感染症全数届出疾患として報告が必要である。

感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、保育園や幼稚園などの乳幼児施設における感染予防は手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本となる。本疾患は主要症状が回復した後も比較的長期間にわたって児の便などからウイルスが排泄されることがあるが、基本的には軽症疾患であることを踏まえ、回復した児に対して長期間の欠席を求めることは現実的ではない。

感染症発生動向調査では、全国約3,000カ所の小児科定点からの報告に基づいて手足口病をはじめとする各種小児科疾患の発生動向を分析している。2010年第15週の手足口病の定点当たり報告数は0.55（報告数1,673）と3週連続して増加がみられており、2000年以降の11年間の同時期の値の中では最も多くなっている。都道府県別では愛媛県（4.00）、福井県（3.14）、広島県（2.78）、鳥取県（2.53）、鹿児島県（2.36）、岡山県（1.85）、山口県（1.51）の順であり、西日本地域に報告数の比較的增加している県が多い。第1～15週までの15週間の定点当たり累積報告数は4.09（累積報告数12,398）であり、広島県（22.92）、鹿児島県（18.33）、愛媛県（17.86）、福井県（17.05）、岡山県（16.72）、山形県（14.10）、鳥取県（13.79）、山口県（7.78）の順となっており、中国地方を中心とした西日本地域で報告数が増加している県が多くなっている。

累積報告数の年齢別割合をみると、発生報告の中心が5歳以下の乳幼児であることは例年と同様であり、2010年は3歳以下で全体の70%以上を、また5歳以下で全報告数のほぼ90%を占めている。

第1～15週までの15週間の手足口病由来ウイルス分離・検出報告数はまだ38件であるが、EV71が52.6%（20件）と最多であり、2004年以降では最も高い割合となっている。

2010年は現時点において既に手足口病の患者報告数の増加が認められているが、同疾患の流行のピークは夏季であり、今後更に患者数が増加してくるものと考えられる。加えて、手足口病の患者由来検体からはEV71が検出される状態が続いており、今後患者発生数の増大と共に中枢神経系の合併症発生例の増加が懸念される。今後とも手足口病の推移と発病者由来検体からのウイルスの検出状況には注意が必要である。

定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週	全国(16週)	高知県(17週未累計) H22/1/4~H22/5/2
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ	1						1 (0.02)	1 (0.02)	947 (0.20)	2,543 (52.98)
小児科	咽頭結膜熱			1			4	5 (0.17)	3 (0.10)	617 (0.20)	25 (0.83)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		4	7	5	1		17 (0.57)	30 (1.00)	4,800 (1.58)	357 (11.90)
	感染性胃腸炎	28	50	150	32	14	20	294 (9.80)	257 (8.57)	30,023 (9.91)	5,181 (172.70)
	水痘	14	1	16	11	6	14	62 (2.07)	34 (1.13)	5,264 (1.74)	611 (20.37)
	手足口病		2	10	29			41 (1.37)	15 (0.50)	2,390 (0.79)	95 (3.17)
	伝染性紅斑			5				5 (0.17)		915 (0.30)	31 (1.03)
	突発性発疹		1	9		1		11 (0.37)	17 (0.57)	1,842 (0.61)	159 (5.30)
	百日咳		1					1 (0.03)		93 (0.03)	17 (0.57)
	ヘルパンギーナ		7	26	6	2	1	42 (1.40)	41 (1.37)	484 (0.16)	135 (4.50)
	流行性耳下腺炎		4	2				6 (0.20)	4 (0.13)	3,067 (1.01)	72 (2.40)
	RSウイルス感染症			4				4 (0.13)		544 (0.18)	758 (25.27)
眼科	急性出血性結膜炎									12 (0.02)	2 (0.67)
	流行性角結膜炎			4				4 (1.33)	2 (0.67)	395 (0.58)	19 (6.33)
基幹	細菌性髄膜炎			1				1 (0.14)		10 (0.02)	3 (0.43)
	無菌性髄膜炎			1				1 (0.14)		11 (0.02)	4 (0.57)
	マイコプラズマ肺炎			4				4 (0.57)	2 (0.29)	182 (0.40)	18 (2.57)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			1				1 (0.14)		5 (0.01)	5 (0.71)
計 (小児科定点当たり人数)	43 (21.25)	70 (10.00)	241 (20.91)	83 (27.67)	24 (12.00)	39 (7.80)	500 (16.29)				
前週 (小児科定点当たり人数)	22 (11.00)	58 (8.29)	188 (16.73)	64 (21.33)	32 (16.00)	42 (8.33)		406 (13.39)	51,601	10,035 (301.01)	

定点当たり

第17週

定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週	全国(16週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ	0.25						0.02	0.02	0.20
小児科	咽頭結膜熱			0.09			0.80	0.17	0.10	0.20
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.57	0.64	1.67	0.50		0.57	1.00	1.58
	感染性胃腸炎	14.00	7.14	13.64	10.67	7.00	4.00	9.80	8.57	9.91
	水痘	7.00	0.14	1.45	3.67	3.00	2.80	2.07	1.13	1.74
	手足口病		0.29	0.91	9.67			1.37	0.50	0.79
	伝染性紅斑			0.45				0.17		0.30
	突発性発疹		0.14	0.82		0.50		0.37	0.57	0.61
	百日咳		0.14					0.03		0.03
	ヘルパンギーナ		1.00	2.36	2.00	1.00	0.20	1.40	1.37	0.16
	流行性耳下腺炎		0.57	0.18				0.20	0.13	1.01
	RSウイルス感染症			0.36				0.13		0.18
眼科	急性出血性結膜炎									0.02
	流行性角結膜炎			4.00				1.33	0.67	0.58
基幹	細菌性髄膜炎			0.20				0.14		0.02
	無菌性髄膜炎			0.20				0.14		0.02
	マイコプラズマ肺炎			0.80				0.57	0.29	0.40
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			0.20				0.14		0.01
計 (小児科定点当たり人数)	21.25	10.00	20.91	27.67	12.00	7.80	16.29			
前週 (小児科定点当たり人数)	11.00	8.29	16.73	21.33	16.00	8.33		13.39		

2010年週報推移(定点当たり)

